

宇宙シンポジウム in 串本が開催されました



特別講演を行う古川宇宙飛行士。参加者からの質問にも丁寧に答えてくれました。

その後、株式会社アクセルスペースホールディングスの中村友哉さんが「宇宙を普通の場所に～小型衛星が切り拓く宇宙開発の未来～」、三菱電機株式会社先端技術総合研究所の佐藤友紀さんが「身近な宇宙利用である衛星測位の世界」を題目に基調講演を行いました。講演では、小型人工衛星の需要が高まりを見せていることや、人工衛星の測位技術が進展し、防災をはじめとする多様な分野で活用されていることが示されました。

続いて実施されたパネルディスカッションでは、東京大学大学院工学系研究科の中須賀真一教授、スペースワン株式会社の遠藤守取締役、串本古座高等学校・藤島徹教諭も参加し、宇宙開発などについて活発な意見交換が行われました。

8月31日、今回で7回目となる「宇宙シンポジウム in 串本」（県主催）がメルキュール和歌山串本リゾート＆スパで開催され、会場には約350人、オンラインでは約600人が参加しました。

今回のシンポジウムは「宇宙へ届ける『荷物（人工衛星）』の活用方法」をテーマに実施され、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の宇宙飛行士である古川聡さんの特別講演も行われました。

古川さんは「次は君が宇宙に！」と題して講演し、国際宇宙ステーション（ISS）での実験や生活の様子について、写真や映像を交えて紹介しました。

さらに「いろいろなことに興味を持ち、その中で自分の好きなことや得意なことを見つけてほしい。そしてぜひ夢を持ち、その夢に向かって挑戦してほしい。その挑戦がとても大切です。皆さんの夢が叶うよう応援しています」と語り、参加者にエールを送りました。



中村さん



佐藤さん



パネルディスカッションの様子

【広告】 町収入の一部とするため有料広告を掲載しています。